

平成30年度「救急の日」シンポジウム

「大規模災害時における医療救護 ～大地震、気象災害やテロに備えて～」

《基調講演 東京曳舟病院 病院長 講師 山本 保博 氏》

○山本氏 山本でございますが、このようなすばらしい席にお招きいただきまして、心から感謝申し上げたいと思います。

今日、私はタイトルでは、大規模災害時における医療救護ということで、大地震あるいは豪雨災害という流れだけではなく、私自身として、やはりテロ災害あるいは気象災害全体をお話しさせていただければありがたいと思っている次第であります。35分という短い時間でございますので、手短かに進めていきたいというふうに思います。

まず、私、お話をさせていただきたいのは、私のレジュメで書かせていただいておりますけれども、災害の大局的な観点から、対応策の基本を考える際には、私はこのC S C A T T Tというこの概念が非常に当てはまっているのではないのかなと思っています。医療関係の皆様方には、よく出てくる名前だと思いますけれども、私の2枚目のところに書いてあります、Cというのは、C o m m a n dとC o n t r o lというような流れであります。

C o m m a n dというのは、指揮・命令という意味であります、この指揮・命令というのは縦軸のラインであります。例えば、消防が消防の部長から下の係長あるいは隊員の流れに沿うのがC o m m a n dでありますし、C o n t r o lというのは横軸になります。横軸というのは、例えば消防と自衛隊と医療関係者というのは、やはり命令系の中では独立しておりますので、それらをみんなで仲よく災害時の現場で医療行為、あるいは救助活動を行うには、やはりC o n t r o lという概念、それは調整とか、あるいは統制とか、そういう概念であります。

この辺の縦軸と横軸がうまく重なると災害医療というのは、なかなかうまくいかないんだよというのが私の考えであります。その辺のところに書いてありますので、お読みいただければというふうに思います。

それでは、その先の話でございますが、災害というのは、どう転んでも、昔は寺田寅彦が災害は忘れたころにやってくると言っておりますが、最近の災害は忘れないうちにやってくる、もっと端的に言えば、きのうあった台風災害というのは、また2～3日後にやってくるような現代の流れでございますが、このような形で実は災害のサイクル、あるいは医療サイクルというのは、ぐるぐると回ってまた出てくるわけであります。忘れ

ないうちにやってくる災害を今、我々のところは災害の準備、プリペアドネスというふうに言っておりますが、プリペアドネスあるいはトレーニング、プランニング等々がここに入るわけがございます。プリベンション・アンド・プリペアドネスとよく言われるものでございます。

そうしているうちに前兆があり、そして発災が起こるところで、急性期、亜急性期、慢性期というような形でありますけれども、後から東京都の流れもお話をさせていただきたいと思えます。

そして、その中でC S C A T T Tというのがありますけれども、運営のところはC S C Aであります。その中で、先ほどお話ししました指揮・命令と統制・調整というのは、違うわけで、横軸と縦軸の違いだというふうにお考えをいただきたい。

そして、C SのSというのは、s a f e t yでございますけれども、s a f e t yには三つあると言われております。まずは、s e l fです。ご自身の安全ということを十分に考えに入れながら、災害現場では活動してほしい、s e l fです。

それから、2番目にs t a f fです。そして、3番目が、s u r v i v o r、命を瀕している皆さんをどう助けるのかという三つのs a f e t yがまず大事だと。

それから、その先に情報伝達というのが非常に大事で、これも後から述べさせていただきます。そして、評価をし、T T Tというのは、医療支援というところでもあります。これは、関東大震災、1923年の版面でございますけれども、伊豆方面、あるいは横浜等々は大きな津波、地震とともに津波が襲ってきたわけでございますが、このような複合災害と言っておりますが、最近では地震と台風、あるいは地震と横浜とかいろいろなどころにある地震附属災害と言っておりますが、例えば液状化の問題、あるいは洪水の問題、あるいは地下街の問題等々をどういうふうに考えるのかというところは、とても大事なところだろうというふうに思えます。

これは、関東大震災のときに、皆さんは火災で亡くなったということを考えがちですけれども、実際には火災で焼けたというよりも、こういうふうにバタンバタンと倒れる、下のほうは洪水でありますけれども、こちらのほうは火災です。

ところが、火災で焼けて亡くなったのかというところではありません。関東大震災のときに、10万人が亡くなりました。本所吾妻橋、あの辺で3万6,000人が亡くなりました。

その皆さんは、お考えいただきたいと思えますが、火事ではないんです。それは、余りにもすごいつむじ風が起こって、地域の酸素がみんななくなってしまった。そうすると酸欠でみんな倒れてしまうというようなことが言われております。もちろん、そういう流れでの3万6,000人が本所あたりで亡くなったということではありますが、これが、東京都がもう今、東京だけではありません。これは、日本全国でフェージングとっておりますが、フェーズ区分がこれで言われております。

フェーズ0というのが発災から6時間ぐらいまで、そしてフェーズ1というのが72時

間、これが72時間というのは、漸近線で72時間過ぎると非常に救命率が下がるというところのものでございます。フェーズ2というのは、急性期とさっき出てきました1週間ぐらい。

それから、亜急性期、慢性疾患あるいはPTSD等々があつての話が、この流れもぜひ考えの中に入れて、次のところに進んでいただきたいと。CSCAという流れの中での話は、特に災害医療に関してはControlと、先ほどお話しさせていただきましたが、みんなでディスカッションをして、次のステップに移っていくということがとても大事であります。

これを見ていただくと、おわかりになるとおり、東日本大震災のときの話ですけれども、自衛隊がいい、そして医療関係者がいて、それから消防がいて、あと宮城県の皆さんもおられるというような流れの中での、それをクラスターミーティングといっています。複合的に皆さんで朝と夕方、必ず集まるというようなところがとても大事なところがございます、それはCommunicationというCSCのCでございます。

そして、もう一つ大事なことは、災害対策を考える際に、頑張れるのと反発するのと二つの勢力が出て必ず来ます。そして、ハンというのは例えば国のことも考える、あるいは土地がなくなってしまった、あるいは、キーパーソンがいなくなってしまったというのは、非常にネガティブなところでありまして、それを先見性とか、信頼性とか、こういう皆さんによって成就させていく阻害要因を少しでも削るというのが、これが災害医療の最大のポイントの一つだろうというふうに思います。

それから、もう一つ大事なことがあります。災害医療に関しては、ボランティアベースで事が運んでいきます。そうしますと、ボランティアの皆さんと行政的な行動を行う皆さんとの間には、コンフリクトが起こってくるわけです。それは、ボランティアというのはみずからの意図で判断して、規制というのは余り好まないんです。実際にはそういうものなんです。

そうすると、それに関して行政的な行動をとるような皆さんにとっては、何だ基準行動を考えてもらいたい等々ということで、コンフリクトが起こってくると、このコンフリクトを十分話し合うのはクラスターミーティングではないかというふうに思いますので、現場に行く皆さんは、ぜひぜひこういうことが実際に起こっているんだと、だからその中でぜひ考えていただきたいということだろうというふうに思います。

これは関東大震災のときに出た新聞の大きな広告であります。警視庁が、一生懸命頑張っている皆さんはいいんだけど、相当違う意図を持ってありもしないことを言いふらしたり、あるいはどうしようもない言動を行うような、あるいは相当精神的に参ってしまうような皆さんが出てくるわけでありまして、それをどういうふうに考えて対応していくのかというのが、とても大事なことになります。ありもしないことを言いふらすと、処罰されるということが言われております。

これは、高知県です。高知県のそのものを、私、撮ってきたんですが、何と250人ぐ

らいの人が津波のときのために、津波シェルターというところに入れるようにつくってあるわけでありまして、この津波シェルターというのは、これから大都會の0メートル地区においては非常に洪水災害とか、土砂災害のときにはいろいろなシェルター機能を持つてはないのかと、私はそういうふうに思って、この流れを期待しているわけでありまして。

つい最近の台風、これは台風21号の流れでございますが、関西空港が、下のほうのスライド2枚は関空の中の一つの滑走路で、全く水の中に埋没してしまった。このぐらいのことは、高潮があったら、その先のことはわかるだろうということは言えるわけですが、実際には、地下が沈下している、自然沈下していることもあり、どのぐらいのというのがわからなかったのかもしれませんが、全くこういうふうになってしまったわけでありまして。

これを東京に置き換えて考えると、羽田の滑走路の中の第4だと思っておりますが、海の中のあいう滑走路というのは大丈夫なのと考へざるを得ないと。

それから、連絡路も上のほうですか、何とタンカーが、こんな千トン以上あるとっておりますが、ぶつかってどう転んだのか知りませんが、こんなにずれてしまっているということを考えると、やはり連絡路も海の中に、ただ置いただけのものなのかなとも思ってしまうわけでありまして、この辺のところは驚くなど。これも東京都の場合、海上滑走路、あるいはモノレール、あるいは海ほたる等々は大丈夫なのかというのも、やはり考へなければいけないのではないかとこのように思っております。

これは、胆振地震で震度7ということで、ブラックアウトが起こったということ、これも東京に当てはめたときに、東京湾のあるいは東京電力の火力発電というのは、川崎と千葉にくっついてずっとあるわけで、それが実際にはどうなるのかなということも、これから考へなさいいけないのではないかとこのように思っております。

時間がありますので、あと5～6分で終わりたいと思っております。

これは最近のテロの件数と死者数です。これを見ていただくと、2010年ぐらいのところから急に立ち上がっているのがおわかりのとおりでありまして、テロというのは、2020年というのは相当考へなければいけないのではないかとこのことが言われております。私、時々アメリカ等に、あるいはヨーロッパ等に行って、テロの実行犯というのは、どういう特徴があるのかというのをとても興味を持っております。

そして、テロというのはもともとは、もちろん標的がある政治的な、あるいは他の目的でAさんBさんを狙うということがそうなんです、今のテロというのは全くソフトターゲットといって、何にも関係のない人を殺傷するというところが、とても重要性があるというふうに思っております。

例えば、ボストンのマラソンでは、一番最後のゴールのところみんなの目が向くと、あの近くというのは一番薄くなるんだそうです。だから、そのところでの爆破災害というのは、やはりこれからも重要性が増してくるだろう。

そして、セカンドヒットというのをよく言われておりますが、一発目の爆発というのは、それほど大したことない、みんなが集まってきたところで本来の目的を達成するために、非常に大きな爆破を起こすと、そのセカンドヒットというのは、とても大事だよというわけでありませう。

また、この4番目に書いてあります、原因不明のショック等々が起こったときには、必ずテロの可能性をこれから考えなければいけないのではないのかと思います。

そして、最後に私、皆さんに、テロリストの見分け方はどうなんだと、どうしたらわかるんだそれはというところで、アメリカ等々出ておりますパンフレットを持ってきたものでございませう。

その中で、最近のテロリストは女性が多い。女性が多いというのは、どういうことを言っているのかといいますと、やはり女性に対してはイスラムでもいろんなところでも、動きに本来の遠慮というものが出てくるということなんだろというふうに思いますが、女性が多くなってきている。

そして、何かダボダボのガウンとか、あるいはマント等を注意しろというふうに言われております。

それから、一番最後のほうに、マスクでひげとか頭を隠すような人は非常に気をつけろと。それから、わざわざひげをそって跡が青白くなっている人には気をつけろというふうに言われております。

この辺のところも、ぜひアメリカあるいはヨーロッパの、これから主要都市に行くときには、テロということでの、これはそれをまとめたものでありますけれども、目つきがおかしいというのは事前に薬を飲まされているということなんですね。

例えば、麻薬で何となく挙動不審でふらふらしている皆さんがいたら、そこからすぐ離れたほうがいいと思います。それから、やはりセカンドヒットを注意しなきゃいけないときには、一つの爆発なり何なりが起これたら、そのままそこを立ち去るということが非常に大事で、日本の人たちというのは、そのときに何があったんだとみんなで見に行こうという流れが出てくるのは、非常にこれから危ないのではないのかと思っております。

これは、最後のスライドですけれども、1923年に関東大震災が起こったときには、某国の皆さんが井戸水の中に青酸ガスを入れたり、あるいは非常に破壊的な行為をしているというんで、何と9月2日の日に戒厳令が出た。戒厳令が出たのは、9月1日の地震の次の日だったということでありまして、とてもこれも大変な事件だったわけございませう。

この辺のところもお考えの中に入れていただき、ぜひ来る2020年のときには、一つは複合災害として、地震災害と台風災害、あるいは熱中症と地震等々、複合する災害がきっとあるだろう。再来年の7月24日というのは、これは動かせないという流れの中で、お考えをいただきたいというふうに考えております。

その中での話をこれから3人の先生方、プラス課長を入れて、4人の皆さんとともにパネルディスカッションを行っていききたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと申います。

私は、以上の話であります。ご清聴ありがとうございました。